



支援団体の施設で、支援者の話に耳を傾けるレイプ被害者の女性たち。薄暗い部屋の中で寄り添うように静かに時を過ごす=コンゴ東部ブカブ郊外

ニンニ（旧サイル）東部はレアメタル（希少金属）が豊富で、1998年に発生した内戦は鉱物利権も絡み、ルワンダなど5カ国が介入する国際紛争に発展、2003年までに数百万人が死亡した。その後も治安は回復せず、12年からは政府軍と反政府勢力「3月23日運動」の衝突が続いた。国連の推定では98年以

戦闘激化、被害増える

陰三三二でレイアされた女性は20万人以上。06年だけ40万人以上が被害に遭ったとの米研究班の調査もある。医師ムクウェゲによると、一昨年からの戦闘激化で被害者数は再び増えた。

(仮名)は13歳で子と理解していない」。ムラシカイは「23歳の青年ムララが、まるで理解していない」と、も兵となり、レイプをクウェゲが力説した。繰り返したと告白し市民や警官までもレイブた。2004年にブレイブを襲った反政府勢力が、自分の目の前で母と当時10歳の妹をレイブをするようになつたと嘆き「教育が必要だ」と訴える。

ムクウェゲはまた、紛争が続く根本の原因はコング東部の豊かな鉱物資源をめぐる経済的利害にあると指摘し、母はその場で女性器に発砲され死亡、妹も

書らす。自由はなくなつたが、神と、そして女性たちと自分がさらりに「共にいる」と感じ分の命も誰かに守られようになつた。「今日も治療を続ける。
（敬称略、文・吉田昌樹、写真・中野智明）
共同通信

何人も見てきた。「レ　　12年末に組織を脱退
　　イプは家族や地域社会　　したムルラは現在　後
　　を壊す戦略で（敵対勢　　悔の日々を送る。「時
　　力間で）使われ、実際　　間を無駄にした」。逮
　　に作用している」。そ　　捕が不安だ。ブカブで
　　の影響は「核や化学兵　　物売りを始めたが体調
　　器のように」何世代も　　が悪い。エイズ感染の
　　後まで残るだろうと嘆　　不安もよがる。

女性たちが野菜を売り、帰国用航空券を買つと申し出た。断れなかつた」。昨年1月にノカブに戻ると、大勢の女性が歓喜の涙で迎えた。



コンゴ(旧ザイール) 女性にとって最悪の地

同病院を立ち上げた産婦人科医だ。

赤ん坊から老人に及ぶレイプ被害、虐殺。数万人の被害者に手術などの治療を施し、ノーベル平和賞有力候補とも言われるムクウェゲには悩み続けた疑問があつた。

「なぜ彼らは、こんな動物以下の残虐なことをするのか」

父親が牧師で、熱心なプロテスタンント信者のムクウェゲ。今、その答えを「レイプが『戦争の武器』として組織的に使われている

「からだ」と考へて、奥へと運行された。その後約5年間、隣国ルワンダから流入した反政府組織の拠点で拘束。若いメンバーに何度も性行為を強要され、児2人を産んだ。

「監獄だった」。46歳の女性ムナメガベは、約9年前、ブカブ郊外の村で銃を持った3人の組にレイプされ、森の

「抵抗して射殺された女性を見た」。恐怖が支配する中「私は逃がして」と力トリック信者のムナメガベは神に祈った。願いが届いたのか、2人目を

的状況を批判してきたムクウェゲは命を狙われたことがある。一昨年10月、ブカブで帰宅した際に待ち伏せした5人組に狙撃された。自分は助かったが警備員が死んだ。

国連で演説し、東部の問題に無関心だと国際社会を批判した直後だった。演説は本来、その前年の予定だったが、コンゴ政府高官に脅され、いったん取りやめていた。

5人組の正体は不明だ。事件後、ムクウェゲは家族を連れて欧洲に逃れ、国にはもう帰

湖近くの山里にひつ
そりと立つ病院の一日
は、キリスト教の朝の
礼拝で始まる。「アマニ
ニ（平和）、アマニ」。

療を求めて駆け込む被害者は後を絶たない。中庭の廊下で目を閉じ、合掌して祈る白衣を着た長身の男性の姿があった。59歳のドニ・ムツケエグ。9年

レイプ被害の女性入院する産婦人科医のドニ・心明るくなった=コン

これを資金源として
か、組織の武器補給は
十分だったとも語つ
た。

祈りよ
力に



パンジ病院でレイプ被害の女性入院患者に笑顔で話し掛ける産婦人科医のドニ・ムクウェゲ。患者の表情も明るくなった=コンゴ東部ブカブ

毎週土曜日に掲載します